

式 辞

中京大学で学び、本日、ご卒業を迎えられた 50 名の皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。誠におめでとうございます。ご卒業される皆さんをここまで励まし、支えてこられたご家族やご親族の方々にも、お慶びを申し上げます。

皆さんの多くが入学された 2020 年の春は、新型コロナウイルスの感染が最初のピークを迎えた時期でした。全国の小中学校・高校の一斉休校が続く中、政府による緊急事態宣言が発令されるなど、社会は混乱に陥っていました。3密、ソーシャル・ディスタンス、新しい生活様式、といった言葉が流行語となり、親しい人との間でコミュニケーションを交わすこともためられるという、それまでに例のない日々が訪れました。

本学でも、入学式はウェブによるメッセージの配信のみとし、春学期の授業はオンラインを活用した遠隔授業に変更しました。学生や教職員の安全を最優先に考えてのやむを得ない措置であり、教育の質を維持するとともに、できる限りのサポートを行っていくよう努めましたが、入学したばかりの皆さんにとっては新しい学友と顔を合わせることもままならない日が続き、さぞ不安が大きかったことと思います。入学する前に思い描いていたキャンパス生活との違いに、残念な思いをされた方も多かったことでしょう。

そうした点にも考慮して、その年の秋学期からは原則的に対面授業を復活させました。とはいえ、その後も多人数での活動には引き続き制約が伴い、ようやく平時に戻ったのは、新型コロナの感染症法上の分類が引き下げられた昨年 5 月のことでした。そこまでの間、皆さんの学生生活の相当部分がコロナと共にあったのはまぎれもない事実だったと思います。

困難な状況のもとにあって、皆さんは学業に、そして部活動に、大変よく頑張ってくれました。皆さん一人一人が、多くの先輩も経験したことの無い逆境にくじけることなく、中京大生としての本分を貫き通してくれたことを本当に誇らしく思います。きょう、晴れて卒業を迎えられたということが、皆さんが厳しい試練を立派に乗り越えた何よりの証しです。

本学にとって、今年が開学 70 周年という区切りの年です。1954 年（昭和 29 年）に中京短期大学として開学し、その 2 年後に四年制の中京大学となり、この 70 年間で延べ 15 万名近い学部卒業生と大学院修了生を社会に送り出してきました。皆さんは本日をもって、新たにその一員に加わることとなります。コロナ禍に屈することなく卒業されたことに大いに胸を張り、それぞれの道を歩いてほしいと願います。

現代の社会は多くの難題に直面しています。ウクライナやパレスチナで続く戦闘の行方は、依然として予断を許しません。この両地域に限らず、世界の各地

では総計1億人を超す難民が故郷を追われ、深刻な貧困や食糧難に苦しんでいることも忘れてはなりません。一方で、気候変動への対処も重要な課題です。日本でもこの夏、観測史上で最高といわれる猛暑に見舞われ、台風災害が激甚化するなど、地球温暖化は明確な現実となって私たちの生活に多大な影響を及ぼしつつあります。これらはいずれもSDGsの中で達成すべき目標に掲げられた項目ですが、もはや掛け声を上げているだけでなく、人類全体として実効性のある対策をいかに具体的に進めていくか、まさに「待ったなし」の状況になっているのです。

わが国の問題に焦点を当てるなら、経済再生をどういった道筋で実現していくかが大きな課題となります。少子化に伴う人口減少も見据えたうえで、この先の社会をけん引する、新たな産業を育てていくことが求められています。自動車などの輸送機械産業を中心に「ものづくり王国」と呼ばれてきたこの愛知県でも、近年はスタートアップの育成に向けた動きが本格化しています。こうした取り組みがさらに裾野を広げ、新しい芽が競い合うように伸びてくることを期待したいと思います。

今後の社会動向を考えると、飛躍的な技術革新を続ける生成AIが持つ可能性も、十分に考慮しておかねばなりません。政府の本年度の『科学技術・イノベーション白書』では、生成AIに関して「私たちの日常生活や価値観もAIによって変わりつつあり、未来の社会はその影響をさらに強く受けることになる」と記し、効率性や生産性の向上につながるプラス効果を予測しています。ただ、AIは基本的に過去のデータを基に答えを導き出すものであり、何もないところに新しい何かを生み出すのは苦手です。複雑な問題に出会ったとき、AIを上手に活用しつつ、その人ならではの感覚や独自の感性を加味して、いかに創造的で革新的な解決策を見つけ出すことができるか。それこそが人類の叡智ではないかと考えます。

中京大学での学びを通して、皆さんには「自ら考え、行動することのできる力」は十分に備わっています。これからの社会生活においても、物事を決めていくにあたっては、前例に頼るのではなく、たとえ回り道になってもできるだけ自分自身で考え、判断することを心掛けて行ってほしいと願います。それが主体的に社会に関わっていくということであり、そうした積み重ねがあってこそ、皆さんが主役として活躍する新たな時代の到来に結び付くのだと考えます。

開学70周年を機に、中京大学は本年度から、新たな長期計画「NEXT10 2033」をスタートさせました。校訓「真剣味」と、建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を不変の理念としつつ、これまで以上に「挑戦する大学」として社会に大きく寄与していけるよう、さらなる改革を推し進め、皆さんにとってより一層、誇り得る母校として発展させていくことをお約束致します。

母校・中京大学での日々を忘れることなく、これからも常に何かを学び、新たなものに挑戦し続けていってください。必ずしもうまくいかないときもある

でしょうが、自らを信じて愚直に一步ずつ進んでいけば、皆さんの前に道は拓けます。10年後、20年後に、よりたくましく成長された皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

本日はご卒業、誠におめでとうございます。

2024年9月20日

中京大学長
梅村清英